

より良くなろうと

努力するからおもしろい！



『NASAより宇宙に近い町工場』一僕らのロケットが飛んだー植松 努 ディスカバー という本を昨日読み終えました。

著者の植松さんは、北海道で小さな町工場を経営している人ですが、その志と行動力は世界の耳目を集めています。小さな頃から飛行機やロケットなどに興味を

持ち、夢中でその道をきわめてきたようです。今では、世界に3ヶ所しかない無重力実験施設も持ち、ロケット開発や人工衛星を打ち上げるなど、宇宙開発に力を発揮しています。現在、宇宙に打ち上げられた人工衛星の残骸を回収するロケットを開発中といます。それらの残骸は、デブリと呼ばれるもので2万個以上あるそうで、これらがあると衝突事故が起き、今後の宇宙開発の支障となるからです。でも、それを片付ける技術を持った工場や施設は、世界に一つもありません。

植松さんは言います。

- ・誰もが工夫して「より良く」を目指せば、社会は良くなる。
- ・「より良く」を求めなくなったとき、社会はダメになる。
- ・「どうせ無理・・・」がすべてをだめにする。
- ・成功するには成功するまでやる。
- ・「だったら、こうしてみたら」がキーワード。
- ・楽をすると「無能」になる。
- ・憧れが努力を生む。

▲同書 P109

好きなことがない人は、学ぶことができないとも言い、自分で興味を持ったことを調べたり、作ってみたりすることを勧めています。みなさんは、あと10年もしないうちに世の中に出て働き出

します。私たちと一緒に日本を世の中を作っていきます。物事に興味をもって、努力し、工夫する人に未来は託されています。

テスト終了です。好きなことに打ち込みましょう。それがない人は、この本を読むことから薦めます。